富良野高校跡地検討委員会への提案（ツムラ漢方）　中村　吉明

北市長　選挙公約に掲げた「すべての市民が健康で幸せを感じる健幸都市富良野をめざして」

富良野高校跡地活用
「稼ぐ力」と「人口増」
私としては (一市民)、「維持費を税金で賄うのではなく、いかに収益を生むモデルにするか」というのが良いと思う。
アホと言われるかと思いますが、これから富良野の人口を三万人に戻すにはどうしたら良いのかなと考えている。

その為にこの富良野高校をどの様に活用したらよいか様々な方々に聞いてたところ、特に面白いなと思ったのは、「くまげらマスターより、ツムラ漢方を富良野に持ってきたらいいんじゃないとお聞きし、考え調べてみました。

●ツムラ漢方との連携・薬草産業

具体案として、『富良野漢方・ウェルネス・バレー構想』を提案します。
「ウェルネス・バレー（Wellness Valley)」とは、直訳すると「心身の健康（ウェルネス）が溢れる、産業と交流の谷（地域)」という意味です。

☆富良野高校利用として
・ツムラ漢方薬草工場、研究所
・薬草レストラン、ハーブスパ
・就農支援センター

農業の進化: ツムラさんのような企業と連携し、農家が薬草栽培で高収益を得られる仕組みを作ります。

産業の創出: 富良野港高校跡地に加工工場・研究拠点を置くことで、安定した雇用を生み、現役世代の移住を促します。

観光の高度化: 『ラベンダーの次は漢方・ハーブ』。健康をテーマにした新しい観光需要を取り込み、宿泊単価とリピート率を上げます。

これにより、基幹産業である農業と観光をアップデートし、3 万人都市への足がかりに。

1. ツムラ（漢方）との連携・薬草産業の拠点化
この案は、「高付加価値農業」と「安定した雇用」を同時に生む

農家の収益向上: 小麦や玉ねぎ、ジャガイモ、メロン等々といった既存の作物に加え、

契約栽培としての薬草は、農家の所得安定に寄与すると思う。

工場の誘致: 高校の跡地（特にグラウンドや体育館の広大な敷地）を、単なる「工場」ではなく、「漢方・ハーブの精製・研究センター」と位置づける。

人口増への寄与: 工場や研究所ができることで、技術者や管理職などの専門職が移住し、若者の働く場所が確保される。

2. 「農業×観光×健康（漢方）」を融合させた複合施設案
「稼ぐ力」を最大化するために、校舎を以下のように多機能化

漢方・ウェルネス観光（観光）:

校舎の一部を「薬膳レストラン」や「ハーブスパ」に改装。

富良野の景色を眺めながら、自分の体質に合った漢方を処方してもらえる体験型ショップ。これにより、従来の「見る観光」から「健康になる観光」へ単価を引き上げる。

スマート農業訓練校（農業×人口増）:

教室を再利用し、薬草栽培や最新のスマート農業を学ぶ「就農支援センター」を設置。移住希望者がここで学び、そのまま富良野で就農する流れ（人口増のルート）を作る

●ツムラのような大手企業との連携を提案する場合、「なぜ富良野なのか？」という理由

「富良野の気候が特定の薬草栽培に適している」

「既存の農業ネットワークが強固である」

「観光客が年間数百万人来るため、商品のテストマーケティングに最適である」

☆北海道夕張市の事例（株式会社夕張ツムラ）
富良野にとって最も参考になるのが、同じ北海道の夕張市の事例

拠点の設立: 2009 年に「夕張ツムラ」を設立。生薬の生産、選別、加工、保管を一括して行っています。

雇用創出: 2024 年時点で約 68 名の社員が在籍し、そのうち地元夕張市民も多く採用されており、地域の大切な雇用先となっています。

農家との連携: 夕張市や滝川市の自社農場だけでなく、周辺の契約農家からも生薬を調達しています。

有効活用: 自治体から耕作放棄地や市有地を借り受けて栽培しており、土地の有効活用と地域活性化を同時に実現しています。

2. 高知県越知町（ヒューマンライフ土佐）の事例
農家の収益向上: 約 300 軒の農家がツムラと契約栽培を行っています。

農閑期の収入: 生薬の収穫は主に冬に行われるため、稲作などの農閑期の貴重な現金収入源となり、農家の所得安定に大きく貢献しています。

教育との連携: 栽培地が地元中学校の環境教育の場として活用されるなど、地域コミュニティに深く根付いています。

「富良野版・生薬ハブ」の構築: 夕張ツムラが空知地方の拠点となっているように、富良野高校の広い敷地を**「上川・十勝エリアの生薬集荷・加工・研究拠点」**として提案

農福連携・教育連携の場: 岩手県などでツムラが行っている「農福連携（障がい者雇用)」や、廃校という特性を活かした「農業研修機能」を付加することで、単なる工場以上の「教育・福祉・産業」の複合施設にできる

●観光との相乗効果: 夕張は生産・加工が主ですが、富良野であればそこに「観光・体験」を加えられる。校舎を「漢方カフェ」や「薬草ハーブ園」として開放すれば、ツムラにとっても自社ブランドの PR 拠点になり、ウィンウィンの関係が築けるのでないか。

●富良野での意味: ツムラのような漢方・生薬企業、健康食品の加工業者、農業研究者が集まり、「健康といえば富良野」というブランドを確立することを意味できるのではないか。

・ 観光と健康の融合（ウェルネス・ツーリズム）
ただ景色を見るだけの観光ではなく、訪れることで心身がリフレッシュされる体験を提供します。

富良野での意味: 薬草園を散策し、校舎で薬膳料理を食べ、ヨガや温泉を楽しむ。「富良野に来ると元気になれる」という滞在型観光への転換

・市民の豊かさ
「バレー（地域)」を名乗るからには、観光客だけでなく、そこに住む市民も健康で豊かであることが重要。

富良野での意味: 漢方栽培で農家の所得が増え、新しい雇用が生まれ、高齢者も薬草を通じて健康に暮らせる。「稼ぐ力」と「市民の幸福」が両立。

●「富良野高校の跡地を、単なるハコモノにするのではなく、農業・観光・医療・食を一つに繋いだ『富良野ウェルネス・バレー』の心臓部にし、　ここに来れば、地元の農家が作った生薬が製品になり、それを求めて世界中から観光客が集まり、市民も健康で豊かに働ける。そんな循環型の新しい街づくり

●「本当に儲かるのか？」。

*ツムラとの契約栽培事例から見える実態

1. なぜ「儲かる」と言えるのか？（収益のポイント）
買取価格の安定（再生産可能な価格設定）　一般的な野菜は豊作だと価格が暴落しますが、ツムラとの契約栽培は「事前に決めた価格」で買い取られます。ツムラは「農家が作り続けられる価格」を重視するため、相場の変動に左右されず、経営の見通しが立てやすいのが最大の特徴

農家にとっての具体的なメリット

「全量買取」という安心感 作ったものが売れ残るリスクが少ない。規格外品（形が悪いなど）であっても、成分が基準を満たしていれば買い取ってもらえるため、廃棄ロスが少ない。

連作障害の回避（輪作体系への組み込み）　玉ねぎやジャガイモの合間に薬草を植えることで、土壌を休ませたり、連作障害を防ぐ「輪作」のサイクルに組み込めます。これにより、主産物の収益性も維持できる。

ツムラは独自の栽培基準を持っており、専門の指導員が巡回して技術を教えます。新しい作物に挑戦するハードルが低く、失敗しにくい体制があります。

一次加工（乾燥・裁断）を地元で行う: 農家が収穫した生薬を、高校跡地の工場で加工することで、加工賃という「付加価値」を地域内に落とすことができる。

現在の漢方・生薬業界「中国からの輸入依存」を脱却し、「国産生薬」を確保する動きが加速している。富良野のような広大な農地と冷涼な気候（病虫害が少ない）は、企業にとって非常に魅力的な進出先と思われる。

『国産生薬の聖地・富良野』

以上の内容をまとめ↓

★富良野高校跡地活用・プロジェクト提案書

構想名：富良野漢方・ウェルネス・バレー構想
～「外貨を稼ぎ、人を呼び、市民の健幸を支える」3 万人都市への再出発～

「ウェルネス・バレー（Wellness Valley)」とは、直訳すると「心身の健康（ウェルネス）が溢れる、産業と交流の谷（地域)」という意味です。

☆富良野高校利用として
・ツムラ漢方薬草工場、研究所
・薬草レストラン、ハーブスパ
・就農支援センター

1. 本提案の目的と背景
北市長が掲げる「健幸都市富良野」を、「産業」として確立。

・維持費を税金で賄うのではなく、収益を生むモデルへ転換。

・人口 3 万人への挑戦: 安定した雇用（2 次産業）と、新しい人の流れ（観光）を創出。

・基幹産業のアップデート: 農業×観光を「健康（漢方)」で繋ぎ、高付加価値化。

2. 具体的な 3 つの柱（活用案）
広大な校舎・敷地を、産業・教育・観光の「心臓部」として多機能化。

【産業】漢方・生薬の精製・研究センター（稼ぐ力の創出）
・企業連携: 夕張市の事例（夕張ツムラ）をモデルに、生薬の乾燥・裁断・保管を行う加工拠点を誘致。

・雇用創出: 技術者、研究職、管理職など、若者や現役世代が定住できる専門職の場を提供。

・農業の進化: 農家との契約栽培（全量買取）により、収入源を確保し、所得の安定化を図る。

【観光】ウェルネス観光（外貨の獲得）
・体験型施設: 校舎を改装し、体質に合わせた漢方処方、薬膳レストラン、ハーブスパを設置。

・高単価化: ラベンダー中心の「見る観光」から、滞在して「健康になる観光」へ。富良野ブランドを「癒やし・再生」の聖地へ昇華。

【教育・人口増】スマート農業・薬草訓練校
・就農支援: 教室を再利用し、薬草栽培やスマート農業の研修施設に。

・移住ルート: 「学ぶ→働く→就農する」の流れを校跡地から生み出し、社会増を狙う。

3.事業の実現性と強み（なぜ富良野か？）

ツムラ等の企業を誘致し、農家が儲かる仕組みを作れる根拠は以下の通りです。
・気候・風土
冷涼な気候は病虫害が少なく、高品質な生薬（国産）の栽培に適している。

・既存インフラ
強固な農業ネットワークと広大な土地があり、輪作体系に組み込みやすい。

・市場性
年間数百万人の観光客。新商品のテストマーケティングや PR 拠点として最適。

・社会的意義
中国依存からの脱却を目指す「生薬の国内自給」という国策に合致。

4. 期待される波及効果
・経済効果: 「全量買取」の契約農業により、農家の所得が安定。

・雇用効果: 加工工場や研究所により、地元出身の若者の流出を食い止める。

・市民の幸福: 市民自らが薬草や健康を身近に感じ、真の「健幸都市」を実感できる。

高校の跡地を、『国産生薬の聖地・富良野』という新しい看板を掲げ、農業・観光・医療を一つに繋いだ『ウェルネス・バレー』を作る